

中鉢会長記者会見および 新年賀詞交歓会の開催

総合企画部

中鉢会長記者会見（電子情報産業の世界生産見通し）

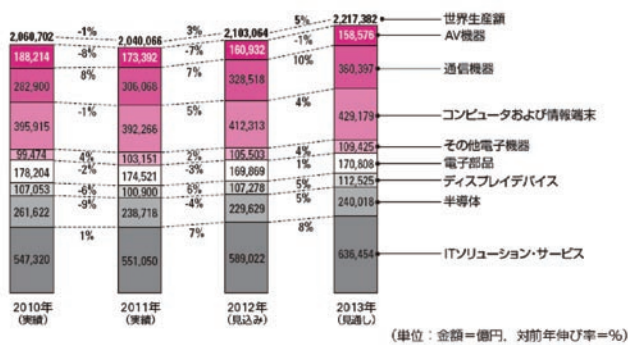
12月14日に中鉢会長の記者会見を開催し、『電子情報産業の世界生産見通し』の調査結果を発表しました。本調査は、電子情報産業の世界規模を把握するとともに、世界中での日系企業の位置づけを明確にするため2007年から実施されています。記者会見には34社44名と多数の報道関係者が出席しました。

世界経済の先行きは不透明ですが、IT・エレクトロニクスと関連産業の融合、クラウド・コンピューティングの普及によるITソリューションサービスの拡大、スマートフォンや

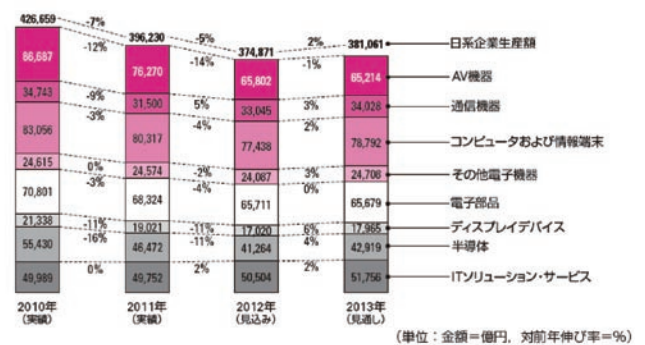
タブレット端末の需要拡大やそれともなう電子部品・デバイスの需要増などにより、2013年の電子情報産業の世界生産は222兆円、前年比5%増と2年続けて増加と見通しました。

日系企業の世界生産も、2013年には38兆円、前年比2%増と前年のマイナスからプラスに転じると見通しました。一方、電子工業の国内生産は、2013年は12兆円、前年比1%増と3年ぶりにプラスとなる見通しですが、海外生産や海外企業への生産委託の増加などの影響もあり、2008年の65%の水準にとどまります。

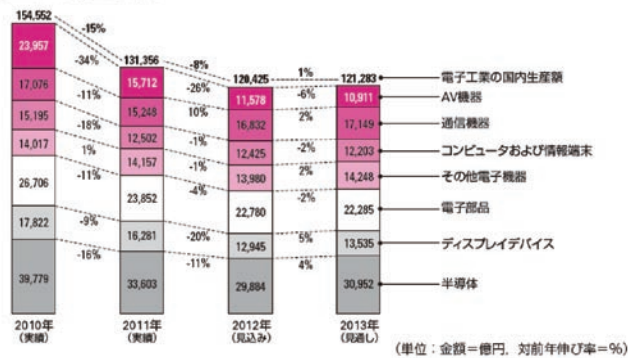
■電子情報産業の世界生産額推移



■日系企業の生産額推移



■電子工業の国内生産額推移



また、今後の成長が期待される注目分野として、今回はITとの融合が期待される「ヘルスケア・メディカル」、安心・安全な暮らしや社会インフラを支えるキーデバイスとして成長著しい「センサ」の市場動向を調査しました。世界のヘルスケア・メディカルの需要額は2011年から2020年の10年間で年平均5%増、センサは年平均14%増と大きな伸びを見通しました。

最後にIT・エレクトロニクス産業の置かれた状況について、会長から所感が述べられました。「IT・エレクトロニクス産業は、熾烈な国際競争の中、国内での最先端技術の開発維持・強化を図りながら、雇用の確保も含めわが国の経済に大きく貢献している。しかしながら、歴史的な円高や電力供給問題などの六重苦に加え、周辺諸国との関係悪化もあり、現在極めて困難な状況に直面している。一日も早い世界水準の事業環境整備に向け、政府による実効性ある施策の強力な推進をお願いしたい」との強い要望が示されました。



■電子情報産業の世界生産見通し
<http://www.jeita.or.jp/cgi-bin/public/detail.cgi?id=473&cateid=1>



■注目分野に関する動向調査～ヘルスケア・メディカル、センサ、JEITAセンサグローバル状況調査～
<http://www.jeita.or.jp/cgi-bin/public/detail.cgi?id=474&cateid=1>



記者会見で説明する中鉢会長

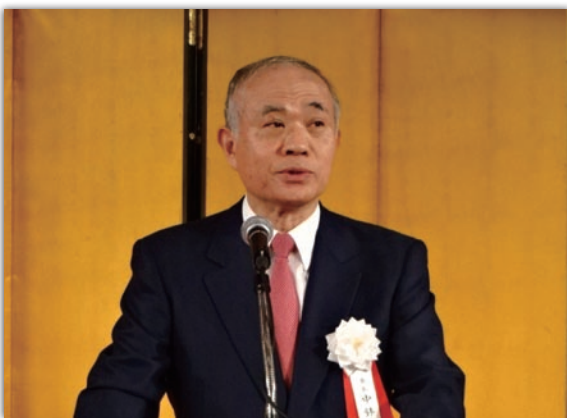
新年賀詞交歓会

1月8日に東京プリンスホテルで恒例の新年賀詞交歓会が盛大に開催されました。会員会社のトップのみならず、産官学から関係者が多数出席しました。

主催者を代表して中鉢会長から、「製造業復活への取り組みにはもはや一刻の猶予も許されない。ここ数年事業環境が大きく変化し、IT・エレクトロニクス業界は正念場を迎えている。今こそ業界は英知を結集し、熾烈な国際競争を勝ち抜かなければならない。そのためには成長領域に事業をシフトし、イノベーションによる新規事業の創出が必須である。日本の目指すべき姿は『ものづくりをコアとした通商国家』であり、新政権には、国際的

に公平な通商条件を確保する事業環境の整備をはじめとした経済対策を、着実・迅速に実行いただきたい。官民一体となって、2013年を新たな経済大国へ向けた『契機の年』としたい」と年頭のご挨拶がありました。

また、来賓としてご出席いただいた茂木経済産業大臣からは、「新政権は経済再生、景気回復が最優先である。長引く円高、デフレからの一日も早い脱却を目指し、設備投資、研究開発、イノベーションの促進に向けオールジャパンで取り組むとともに、さまざまな面で支援していきたい」と力強いお言葉をいただきました。



中鉢会長



茂木経済産業大臣



大勢の出席者でにぎわう会場